

(2) 研究の方向

ア 分析

資料2から、ほとんどの学年の国語科(CRT)の結果が昨年度を上回っていることが分かる。

資料3の質問事項①②から、自分の考えをもち、工夫して発表しよう意識している子供が増えてきていることが分かる。

資料3の質問事項③④から、他者の意見を理解したり、それぞれの意見のよさを生かしたりしてよりよい考えをつくり出すことに継続して課題を感じている子供が多いことが分かる。

これらのことから、自分の考えを明確にもち、相手の考えとその理由を理解したり、自分の考えを工夫して表現したりすることができるようになってきたことが分かる。一方で、話合いを通して自分の考えになかったものを受け入れたり、多様な観点から自分の考えを見つめ直したりすることに課題があることが分かる。

【資料2 CRTの経年比較(国語科)の結果】

	3年生	4年生	5年生	6年生	全体
H30	109	105	107	109	107
R1	114	106	98	114	112
差	+5	+1	-9	+5	+5

【資料3 平成31年度全国学力・学習状況調査
児童質問紙を活用した令和2年度の状況】

質問事項	割合※1 (本校)		伸び (H31 →R2)	全国 ※2
	H31	R2		
① 自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表しているか。	60%	73%	+13	62.5%
② 国語の授業で自分の考えを表現するとき、うまく伝わるように工夫しているか。	40%	73%	+33	58.5%
③ 話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり深めたりすることができるか。	60%	64%	+4	74.1%
④ 互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか。	60%	64%	+4	74.0%

※1 質問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した子供の割合

※2 全国は、平成31年度分

イ 考察

これらのことから、本校の課題解決のために、話合いによって考えの変容が促される学習活動を通して、次のような子供の姿を目指すことにした。

自分の考えを広げたり深めたりする子供

その際、本校の特徴である異学年集団で学んだり、少人数集団で学んだりする複式学級のよさを生かしていくことが課題解決のために有効ではないかと考え、本研究主題を設定した。